

# 序 文

恒藤 暁

(日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 理事・事業委員長)  
大阪大学大学院 医学系研究科 緩和医療学寄附講座

日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団は、『ホスピス緩和ケア白書』を2004年から2013年まで毎年発刊してきた。過去10年間に白書として取り上げたテーマは、「わが国におけるホスピス・緩和ケアの歩み」「ホスピス緩和ケア関連学会・研究会の動向」「緩和ケアにおける教育と人材の育成」「緩和ケアにおける専門性—緩和ケアチームと緩和ケア病棟」「緩和ケアにおける医療提供体制と地域ネットワーク」「緩和ケアの普及啓発・教育研修・臨床研究」「ホスピス緩和ケアにおけるボランティアとサポートグループの活動」「がん対策基本法とホスピス緩和ケア」「ホスピス緩和ケアに関する統計とその解説」「在宅ホスピス緩和ケアの現状と展望」と多岐にわたっている。財団のホームページ ([http://www.hospat.org/practice\\_white-book-top.html](http://www.hospat.org/practice_white-book-top.html)) で公開されているので、興味のある方は見ていただきたい。

今年の『ホスピス緩和ケア白書2014』からは、全国の書店から購入できるように青海社から発行することになった。本白書では、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プランと学会・学術団体の緩和ケアへの取り組み」がテーマとなっている。がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つ複数のがん専門医療人を養成する文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」が2007年度から開始され、2012年度から「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」となっている。このプランにより、一部の医科大学に緩和医療専門医コースが開設された。どのようなプログラムを作成し、実際に取り組んでいるのか、また、その成果はどうであったかを検討していただいている。また、「学会・学術団体の緩和ケアへの取り組み」では、日本救急医学会、日本循環器学会、日本神経学会、日本老年医学会、日本在宅医学会の緩和ケアに関する取り組みやガイドラインについて解説していただいている。

後半の「ホスピス緩和ケアに関する統計と解説」では、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅緩和ケア、教育・学会、診療報酬、医療用麻薬などの統計と動向を資料として掲載している。

本白書が、わが国のホスピス緩和ケアのさらなる拡充のために活用されることを願っている。